

STOP！熱中症

クールワークキャンペーン

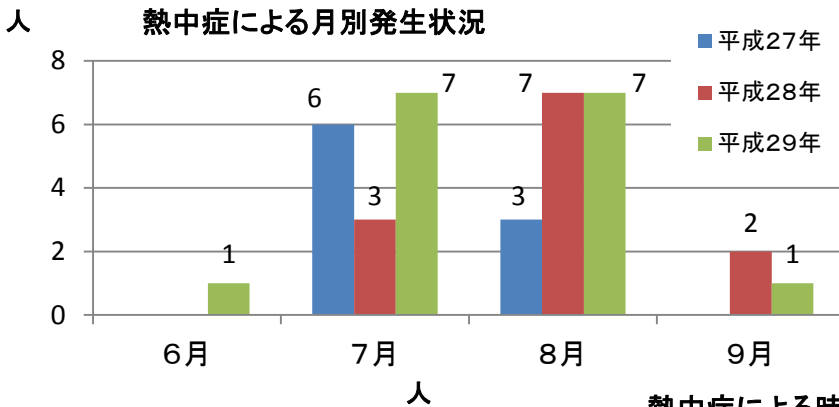
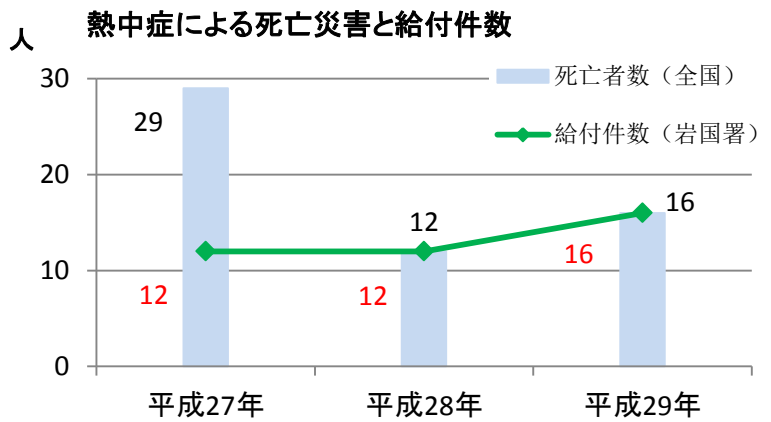
平成30年5月～9月

岩国労働基準監督署

今年も熱中症に対する予防が必要な時期になりました。全国では毎年20人前後の労働者が作業中に熱中症が原因で亡くなられています。当署管内では、ここ数年、死亡災害は発生していないものの、熱中症自体は発生していることから、熱中症の予防のため事業主の皆様は、熱中症の症状や救急処置等を労働者の皆様に教育してください。また、労働者の皆様は、睡眠不足や体調不良がないよう日常の健康管理に気を付け、自覚症状の有無に関係なく、作業の前後、作業中の定期的な水・塩分の摂取に心がけてください。(取組事項は裏面)

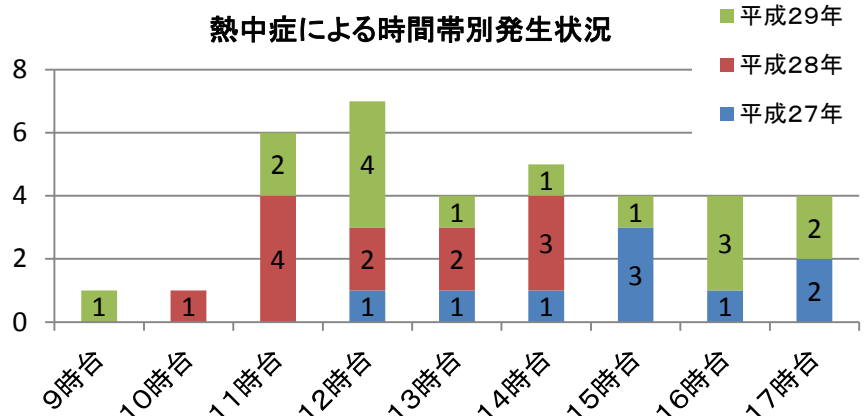
～ 当署管内での熱中症の発生状況 ～

- 当署では、平成27年以降、毎年10人以上の労働者が医師による治療を受けられました。
- 死亡災害は、平成27年以降、全国で毎年20件前後発生しています。当署では、平成20年に炉の補修作業を行っていた労働者が亡くなりました。
- 業種別でみると、全国、当署ともに「建設業」において死亡災害が一番多く発生しています。



- 当署の月別発生状況を見ると、全体の9割弱が7月と8月に集中しています。
- 全国の平成29年の死亡災害は、7月と8月のみ発生し、7月は10人、8月は6人でした。

- 当署の時間帯別発生状況を見ると、12時台が一番多く、次いで11時台と14時台でした。
- 全国の平成29年の死亡災害を時間帯別でみると、11時台に5人、16時台に4人でした。



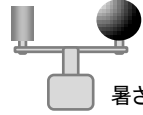
注) 当署では、平成27年に熱中症が12件発生していますが、この内3件については、発生月・時間帯等が不明のため、グラフの件数には含まれていません。

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP 1

☐ **暑さ指数（WBGT値）の把握**

JIS 規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を測りましょう。



暑さ指数計の例

STEP 2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定した暑さ指数に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/>	暑さ指数を下げるための設備の設置		
<input type="checkbox"/>	休憩場所の整備		
<input type="checkbox"/>	涼しい服装等		
<input type="checkbox"/>	作業時間の短縮	暑さ指数が高いときは、 作業の中止、こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	熱への順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り、1週間程度かけて徐々に身体を慣らし ましょう。	
<input type="checkbox"/>	水分・塩分の摂取	のどが渇いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。	
<input type="checkbox"/>	健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょ。	
<input type="checkbox"/>	日常の健康管理等	前日の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんと取ったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的な症状について説明し、早く気づくことができるようにしましょう。	
<input type="checkbox"/>	労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。	

STEP 3

熱中症予防管理者は、暑さ指数を確認し、巡視等により、次の事項を確認しましょう。

- 暑さ指数の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか

☐ **異常時の措置**

少しでも異常を感じたら **ためらわずに病院へ運ぶか、救急車を呼びましょう。**

重点取組期間（7月1日～7月31日）

- 暑さ指数の低減効果を改めて確認し、必要に応じ追加対策を行いましょ。
- 特に梅雨明け直後は、暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょ。**
- 水分、塩分を積極的に取りましょ。**
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょ。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょ。
- 少しでも異常を認めるときは、ためらうことなく、すぐに病院に運ぶか救急車を呼びましょ。**

